

**テーマ：貿易統計（2018年5月）**
**発表日：2018年6月18日（月）**
**～前月の反動から実質輸出は前月比▲3.1%～**

 第一生命経済研究所 経済調査部  
 担当 エコノミスト 伊藤 佑隼  
 TEL：03-5221-4573

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量			
		原数値	季調値	輸出金額	輸入金額	前年比	アメリカ	EU	アジア	前年比	アメリカ	EU	アジア
				前年比	前年比		前年比	前年比	前年比		前年比	前年比	
17年	3月	6,035	721	11.9	16.0	6.6	4.5	▲0.0	7.6	4.2	14.5	4.5	6.0
	4月	4,783	▲27	7.5	15.2	4.1	2.9	2.7	6.7	4.9	8.8	2.9	5.7
	5月	▲2,044	1,643	14.9	17.8	7.6	8.1	16.7	6.7	5.4	5.5	3.0	8.6
	6月	4,332	596	9.7	15.7	4.0	5.2	4.6	3.6	4.3	13.5	7.8	3.4
	7月	4,066	3,250	13.4	16.5	2.6	3.0	▲1.0	1.9	3.2	5.7	4.6	6.6
	8月	968	3,903	18.1	15.5	10.4	18.1	2.9	9.4	2.4	1.3	3.6	3.5
	9月	6,538	2,429	14.1	12.3	4.8	6.2	▲1.8	8.9	▲0.2	14.4	4.4	▲1.0
	10月	2,786	3,902	14.0	19.0	3.8	1.6	0.6	7.8	3.2	0.3	11.0	4.6
	11月	1,052	3,307	16.2	17.3	5.5	4.8	▲1.8	9.1	2.6	14.2	▲1.7	6.6
	12月	3,562	628	9.4	15.0	4.5	2.9	1.5	2.5	5.9	5.5	3.3	9.6
18年	1月	▲9,483	4,699	12.3	7.8	9.2	4.2	9.7	9.8	2.6	9.7	9.0	0.4
	2月	▲1	▲2,278	1.8	16.6	▲2.2	5.1	▲0.9	▲8.5	11.7	5.2	5.9	25.7
	3月	7,933	427	2.1	▲0.5	1.8	3.4	▲7.5	2.5	▲4.9	3.9	4.0	▲8.5
	4月	6,246	4,539	7.8	5.9	4.6	7.1	6.7	1.1	1.5	7.8	▲1.1	2.1
	5月	▲5,783	▲2,968	8.1	14.0	4.2	6.8	▲6.4	4.6	6.3	12.0	3.7	5.7

(出所)財務省「貿易統計」

## ○貿易収支（季節調整値）は前月から赤字転化

5月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は▲5,783億円の黒字（コンセンサス：▲2,813億円、レンジ：▲5,000～▲170億円）と、コンセンサスを下回る結果となった。

輸出金額は、前年比+8.1%（コンセンサス：+7.5%、レンジ：+4.9%～+14.3%）と増加した。輸出数量（同+4.2%）、輸出価格（同+3.7%）ともに上昇し輸出金額を押し上げた。輸入金額は同+14.0%（コンセンサス：+8.0%、レンジ：+2.5%～+13.7%）とコンセンサスを大きく上回る増加となった。前月に続き原油価格の上昇を受けて輸入価格が同+7.2%と上昇した。また、輸入数量も同+6.3%と増加し、価格と数量の両面が輸入金額の押し上げ要因となっている。

季節調整値では、輸出金額が前月比▲1.0%、輸入金額が同+10.6%となった。輸出が鈍化した一方で、輸入が増加したことから、貿易収支は▲2,968億円と前月から赤字転化した。

## ○実質輸出は前月比▲3.1%

為替などの価格変動の影響を除いた実質輸出は、前月比▲3.1%（4月：同+4.1%、実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算）と減少となった。前月が高い伸びであったことや月によって振れの激しい船舶が下押し要因となっていることなどを踏まえると、悲観的になる必要はないだろう。実質輸出は4-5月平均だと1-3月期を前期比+0.9%ほど上回っており、均してみれば緩やかな増加基調を維持していると考えられる。

実質輸出を国別にみると、欧州向けの輸送用機器の減少が目立つ（同▲15.6%）が船舶による減少寄与が大きいことから見かけの数字ほど悪くはない。EU向けの輸送用機械は均してみれば横ばい圏で推移している。米国向けについても輸送用機器が減少したことを主因に同▲1.4%となったが、米国の自動車販売が堅調さを維持していることなどを考えると、今月の減少は月の振れの範囲と見ている。アジア向けについては、一般機械が減少したものの（同▲22.2%）、主要財以外のその他の品目が大きく増加したことで、前月比+1.9%となった。

## ○輸出は先行きも緩やかな増加基調を維持すると見込む

以上のように、5月の実質輸出は前月の高い伸びの反動が出たことなどを要因に前月比マイナスとなった。先行きについて海外経済をみると、米国経済は雇用所得環境の改善が続くことに加え、減税政策の効果により設備投資や個人消費のモメンタムが強まるとみられることなどから、引き続き堅調さを維持するであろう。欧州経済についても、政情不安や企業景況感の改善モメンタムの鈍化といった懸念事項はあるものの、雇用情勢が改善傾向で推移していく中で、緩やかな改善基調を維持するとみられる。アジア経済についても、中国経済が高成長を維持すると見込まれる中で、緩やかな景気拡大が続くであろう。

以上のように、世界経済の改善が続く中で、輸出は引き続き緩やかな増加基調を維持すると見ている。ただし、保護主義的な通商政策に傾斜する米国に対し中国、EU、カナダなどが対抗措置を打ち出すなど、貿易戦争への発展が懸念される。このような貿易摩擦の激化により世界貿易が停滞するリスクには引き続き十分注意したほうが良いだろう。

